

令和2年度 開洋丸調査航海 北西太平洋冬季アカイカ分布調査 調査概要

1. 背景と目的

アカイカは北太平洋を中心に広く分布し、スルメイカとともに我が国のいか釣り漁業にとって重要な資源である。また、本種は「北太平洋における公海の漁業資源の保存及び管理に関する条約（略称：北太平洋漁業資源保存条約、NPFC条約）」の管理対象種であり、我が国は科学的知見に基づく適切な資源管理を主導する立場として、資源状況等を把握するために調査研究を行うことが求められている。

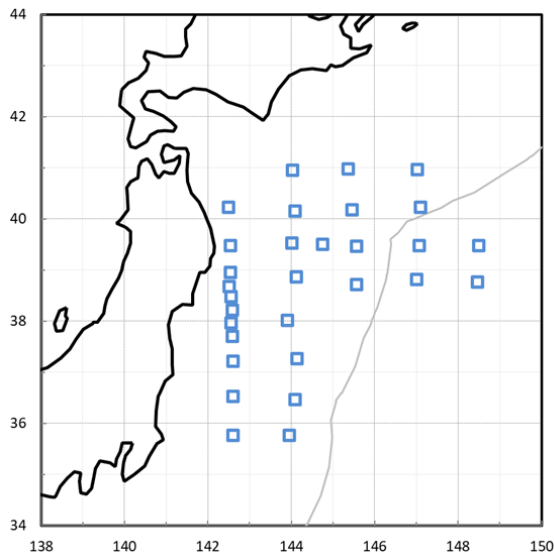
本調査では冬季の日本沿岸を主とした北西太平洋海域（東経143～150度）におけるアカイカ冬春生まれ群の分布と海洋構造との関係を明らかにし、来遊状況の推定や来遊に影響する海洋環境の把握を目的とした。

2. 調査体制

- (1) 調査船：水産庁漁業調査船「開洋丸」
- (2) 調査員：国立研究開発法人 水産研究・教育機構職員

3. 調査海域・調査点

北緯 35 度 30 分～41 度 00 分、東経 141 度 00 分～148 度 30 分の範囲



調査海域図

4. 調査期間

令和2年12月3日～12月24日（調査航海期間）

5. 調査方法

表中層トロール

6. 調査結果（図参照）

30点の調査点のうちアカイカが採捕された点（有漁点）は15調査点（有漁点割合50%）であった。有漁点当たり採集尾数は7.8尾、有漁点当たり平均重量は10.0kgであった（曳網1時間当たり）。また、本調査結果（有漁点割合および有漁点当たり採集尾数）を過去の同様の調査と比較すると、2010年度調査が100%で28.9尾、2015年度調査が45%で6.4尾、2017年度調査が95%で49.4尾と、2015年度調査に次ぐ採集尾数の少なさであった。その他、表中層トロールで採集されたマサバ、マイワシ、カタクチイワシ類の分布と、アカイカの分布との関係をみると、カタクチイワシ類の分布と類似していた。

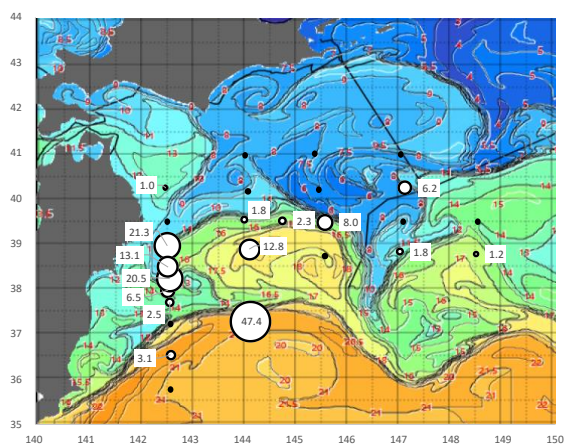
アカイカの分布水温は、経験的に8～23℃程度と考えられているが、12月～2月の表面水温10℃前後の分布が例年より北偏傾向にある年（2010年度および2017年度調査）は日本近海への来遊状況が良く（または分布量が多く）、南偏傾向の年（2015年度および本調査）は逆に来遊状況が悪い（または分布量が少なくなる）傾向がみられた。

7. まとめ

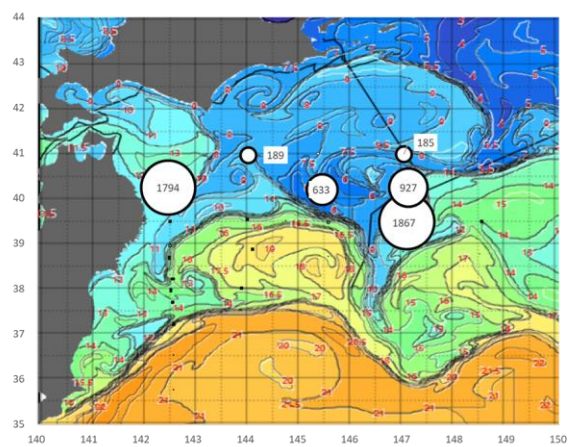
本年度調査結果を過去に実施した同様の調査（2010年度、2015年度および2017年度の開洋丸調査）と比べると、日本船にとって貧漁年と言われている2015年度調査に近い結果であり、2021年1～3月のアカイカ冬春生まれ群の日本近海への来遊状況は低位水準と推定される結果となった。但し、南下経路が沖合化した可能性もあるため、資源状況を判断するには更なる検討が必要である。

今後は、本種の南下回遊経路に起因する海洋環境の解明や資源への影響などについて詳細な分析を進めることが必要である。

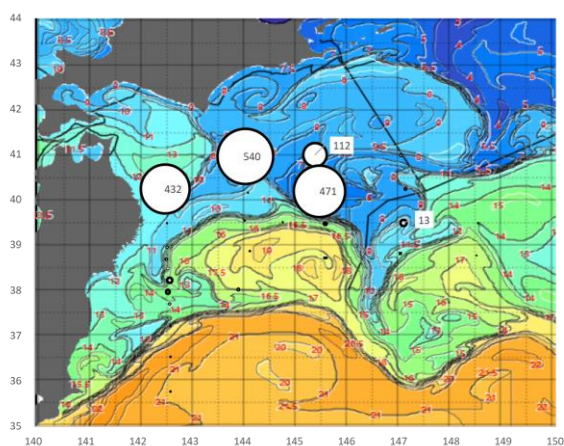
8. 図表



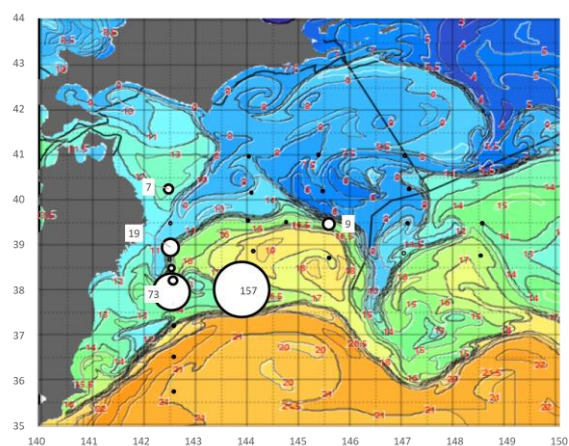
アカイカ



マサバ



マイワシ



カタクチイワシ類

図：表中層トロールで採集されたアカイカ（上左図）、マサバ（上右図）、マイワシ（下左図）、カタクチイワシ類（下右図）の採集重量（kg/Hour）

図中の水温図は（一社）漁業情報サービスセンター配信のエビスくん 2020 年 12 月 16 日を引用した。